

# 西山ファミリー環境探検隊

冬山の自然を探検しよう

区分	講師派遣
日時	2023年3月11日（土）
場所	西山グリーンハウス周辺
天候	晴れ
主催者	長岡京市環境政策課
参加者	大人17名（うち子供9名）スタッフ 6名 森なかま2名 合計25名



快晴のもと、親子の観察会がスタートした。4月半ばの高温となり、この時期の草花が一気に咲きだした。オオイヌノフグリ、ホトケノザ、ヒメオドリコソウ、ミチタネツケバナ、ハコベ、オランダミミナグサ等々、参加者の方々からそれぞれの特徴や「これ食べられるの」などの質問が飛び交った。

ホトケノザの蜜を吸ってもらったり、スイバの葉をかじってみて、「ちょっと酸っぱい」と感想を述べてくれた。



タネツケバナを一輪摘み取って、春を実感。こんなに小さく可憐な花に思いを寄せる小学生の自然を愛する気持ちが伝わってくる。

クリのイガを集めたり、落ちたツバキの花を集めたり、ドングリがまだまだ落ちているので、いっぱい拾い集めて袋にいれていた。

気温がぐんぐん上がり、越冬中の虫が出てくるはず。子供がカラスノエンドウにいるナナホシテントウを見つけ、観察するのにフィルムケースを渡して観察してもらった。餌はアブラムシなので、しばらく食べるものがないと伝えたら、「死んじゃうの」と悲しそうな表情だった。

水路に比較的大きな蛆虫状の幼虫がいた。女の子がかなり興味を示していて、しばらくじっとしたが、母親が「これを持って帰りたいと言ったら、さすがにどうしようかな」と思うと言った。自分の子供が興味を示していることに、否定的にはなれないし、だからと言ってこれだけは受け入れたくはないというジレンマはよくわかる。

店開きでは、今日の復習の意味で、採集した草花を花の名前のところに置いてもらう試みにも、幼児が手を挙げて、それぞれ置いていってくれたのは、実に微笑ましい光景だ。子供たちの興味をかきたてる仕掛けは、思い通りうまくいったと思う。

よく似た植物同士の見極めも小3小4ともなれば、確実なものとなっている。歩きながらいろんな植物を観察したことをしっかり覚えてくれていた。



長岡京市と言え、一番の農産物はタケノコだ。タケノコ農家が心を込めて栽培しているので、刺身でも食べられるほど新鮮だ。

そんな土地柄なので、今日の絵本の読み聞かせは、タケノコがテーマだ。低学年の小学年や幼児も多く、優しく、丁寧にゆっくりと、噛んで含むように、わかりやすく1ページずつ話を進められ、小さな子供たちにも十分理解できたのではないのでしょうか。読み聞かせのお手本のようなものでした。これぞ The yomikikase だ。

今日の親子観察会で感じたことは、親子とも非常に熱心で、花でも虫でも積極的に五感を使って観察しようという姿勢が素晴らしかった。

市の職員に「みなさん熱心ですね。西山ファミリー環境探検には何度も参加されているのでしょうか」と聞いてみたら、「リピーターの方が多いです」という返事でやはりそうかと納得した。

文責 (弓削俊彬)